

2013年11月21日
株式会社日立製作所

カナダで CO₂ 回収実証試験設備の建設を開始

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、このたび、カナダの大手電力会社であるサスカチュワン州電力公社(社長兼 CEO:ロバート・ワトソン/以下、サスクパワー社)と、石炭火力発電所の排出ガスから CO₂ を回収する実証試験向けの設備(Carbon Capture Test Facility/以下、CCTF)の建設を開始します。本実証試験は、2012年3月にサスクパワー社と共同で実施することに合意したものです。2014年秋頃に建設を完了し、2014年内には実証試験を開始し、大型の商用機を見据えた CO₂ 回収技術全体の信頼性や経済性などを総合的に評価する予定です。

カナダでは、国を挙げて CCS(Carbon Capture & Storage:CO₂ の回収・貯留)技術の開発や実証試験を推進しており、特にサスクパワー社は、様々なクリーンコールプロジェクトで CCS の技術開発を進めています。一方、日立は、1990年代から CO₂ 回収技術の研究開発に着手して以来、自社の研究設備や国内外のパイロット装置などで実証試験を積み重ねてきました。

本実証試験では、CO₂ 回収技術の確立に積極的に取り組んできた両社が有する技術・ノウハウを集約し、CCTF で採取するデータをもとに、CO₂ の回収効率や回収に必要なエネルギー量など、大型の商用機を見据えた CO₂ 回収技術全体の信頼性、経済性などを総合的に実証・評価する予定です。

今回建設を開始した CCTF は、サスクパワー社が所有するサスカチュワン州エステバン市近郊のシャンド石炭火力発電所(298MW)から排出されるガスに含まれる CO₂ を、アミン液で吸収分離する化学吸収法を用いて 1 日 120 トン回収する設備です。日立のグループ会社であるバブコック日立株式会社(取締役社長:岡山 正義)とサスカチュワン州の日立パワーシステムズカナダ社(President & CEO:トム・キスチャック)が、日立独自の CO₂ 吸収液「H3-1」の供給や、主要機器の設計・製造を担当します。

日立は、サスクパワー社とのクリーンコールプロジェクトを通じて、CO₂ 回収の高効率化や低コスト化など、実用化に向けたさらなる技術開発に取り組むとともに、低炭素エネルギー技術の開発を進め、低炭素社会の実現に貢献していきます。

■照会先

株式会社日立製作所

電力システム社 ボイラ事業部 環境開発部 [担当:鈴木]

〒101-8608 東京都千代田区外神田四丁目 14 番 1 号

電話 03-4564-9147(直通)

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
